感謝の気持ちと納税を

京丹後市立大宮中学校三年一組　平林（ひらばやし）　和奏（わかな）

先日、私の家に高級そうな牛肉が届いた。どうやらそれは、私の父の従姉妹がふるさと納税をして私の家に送ってくれたものらしい。テレビのニュース番組などで近年「ふるさと納税」という言葉をよく耳にするようになったと思う。テレビの中だけのことだと思っていた「ふるさと納税」が急に身近に感じられた瞬間だった。

ふるさと納税の理念は「ふるさと納税で地方創生」。近年、若者は都会へ出ていく傾向にある。京丹後市の人口も十数年前と比べると一万人ほど減ったらしい。となると、このまま先どんどん納税者が減っていくのだろう。私もやりたい事をするために、いつかは丹後を出るだろう。しかし、その時には、「私をこまで育ててくれた丹後に恩返しがしたい。」という思いを持っていると思う。そんな思いに応えてくれる「ふるさと納税」。育ててくれた地域へ奉仕できる素晴らしい制度だと思った。ふるさとのみならず、自分で納税する自治体を考え選べることから、税について改めて考えられる一つの良い機会でもあると思う。

私のふるさと京丹後市も「ふるさと納税」をやっている。どんなことをしているのかホームページを見てみた。京丹後市は大きく七つのことに寄付金を使っているようだ。定住促進や農林水産業などの振興にあてる「にぎわいのふるさと応援事業」や環境保全のための「環境のふるさと応援事業」など他にも福祉や子育て、地域の安心、コミュニティビジネス応援など多方面に使われる。それに、自分で寄付金をどこにあてるかも決められる。寄付金の利用方法がはっきり分かるので安心して納税ができるなと感じた。そして、「ふるさと納税」と言えばテレビでもよく言っている「お礼品」が良いということだ。丹後のお礼品もとても良いものばかりだ。丹後産コシヒカリや茹で松葉ガニ、丹後ちりめんなど丹後の名産品がたくさんあった。納税して、ふるさとの味を堪能できるとは一石二鳥だ。

実際、今どのくらい納税されているのか。答えはまさかの九兆円超えだ。さすがにこれには驚いた。五千人以上が丹後に納税している。そして内訳を見ると最も多かったのが、「未来を拓く子どもを育むふるさと応援事業」だ。他を抜いてダントツだった。つまり、それだけ多くの人が私達、子どもに期待して私達のために納税しているのだ。なんて有難いことだろう。それと同時に責任もある。私達がこうして学校に行けるのも税を納める人がいるからだ。だから私は、その期待に応えるためにもしっかり学び成長すると誓う。

私も大人になって、もし丹後を出ていてもふるさとへの感謝は忘れない。自分がしてもらったようにふるさとの環境を守るため、子どもたちを育むため、発展のため、精一杯協力していくつもりだ。それが離れていてもできるふるさとへの恩返しだと思うから。